

## ・ < 研究ノート >

### 1 . 赤色スポーツインターナショナル成立史

上野 卓郎

#### 1 研究の経緯

2003 年モスクワ・アルヒーフ (RGASPI) 調査・収集史料の研究を、最も関心のあった赤色スポーツインターナショナル「解散決議」(1937 年) に焦点を当て、その関連史料の訳出・解読によって進めてきた (本『スポーツ研究』2004、05、06 年)。調査・収集のさいに入手していた「成立史料」(1921 - 22 年) については傍に置いたままだった。2007 年にそれを訳出する作業に取り組み、その結果、研究史から見ても重要な発掘があったことを確認した。

研究史をニツチュ (1985 年) と上野 (1986 年) からグノ (2002 年) までとすると、前二者と違い後者が初めてオリジナル史料に依拠したという点で明らかに転換が見られる。しかしながら、グノによる「成立史料」利用には問題があり、特に 1922 年史料の内容に踏み込んでいないことが分かった。グノは著作の注 97 で次のように記している。「すでに (1921 年) 7 月 19 日の第 1 回会議で労働者スポーツの国際共産主義組織を創立するポドウオイスキの提案が採用された。7 月 23 日、RSI の方針と暫定規約が仕上げられた。この日が後に公式に RSI によって創立日付として示される。」これを史料による史実として確定してよいか改めて論点となる。

#### 2 「成立史料」

1 . 1921 年 7 月のインタースポーツの協議会に参加した者の名簿 (Verzeichnis der an der Konferenz des Intersports beteiligten im Juli 1921) .RGASPI.f.537.op.1.d.2.l.1.

2 . 赤色スポーツ・トゥルネンインターナシヨ

ナルのマニフェスト (Manifest der Roten Sport-und Turneninternationale).Ohne Datum. RGASPI.f.537.op.1.d.2.l.19-22.

3 . 国際赤色スポーツ・トゥルネン協議会第 1 回会議。モスクワ、雀が丘、1921 年 7 月 19 日 (I.Sitzung der Internationalen Roten Sport-und Turnkonferenz. Moskau, Sperlingsberge. d.19. Juli 1921) .RGASPI.f.537.op.1.d.1.l.26-28.

4 . 国際赤色スポーツ・トゥルネン協議会 [ 第 2 回 ] 会議。モスクワ、雀が丘、1921 年 7 月 23 日 ( Sitzung der Internationalen Roten Sport-und Turnkonferenz. Moskau,Sperlingsberge. d.23. Juli 1921 ) .RGASPI.f.537.op.1.d.1.l.39-42.

5 . プロトコル第 3 号。国際赤色スポーツ・トゥルネン協議会 [ 第 3 回 ] 会議。モスクワ、雀が丘、1921 年 7 月 24 日 ( PROTOKOLL Nr.3 der Sitzung der Internationalen Roten Sport- und Turnkonferenz. Moskau,Sperlingsberge. d.24. Juli 1921 ) .RGASPI.f.537.op.1.d.1.l.50-52.

6 . プロトコル第 4 号。赤色スポーツ・トゥルンフェラインの国際協議会 [ 第 4 回 ] 会議。モスクワ、雀が丘、1921 年 7 月 27 日 ( PROTOKOLL Nr.4 der Sitzung der Internationalen Konferenz Roter Sports- und Turnvereins. Moskau, Sperlingsberge. 27. VII. 1921 ) . RGASPI.f.537.op.1.d.1.l.57-58.

7 . プロトコル第 5 号。国際赤色スポーツ・トゥルネン協議会 [ 第 5 回 ] 会議。モスクワ、雀が丘、1921 年 7 月 29 日 ( PROTOKOLL Nr.5 der Sitzung der internationalen Roten Sports- und Turnkonferenz. Moskau,Sperlingsberge. d.29. Juli 1921 ) .RGASPI.f.537.op.1.d.1.l.98-105.

8 . 赤色スポーツインターナショナルの第 2 回

協議会の審理の速記原稿原本。1922年7月29、30、31日、ベルリンにて開催  
(Originalstenogramm der Verhandlungen der 2ten Konferenz der Roten Sportinternationale, abgehalten am 29,30,31 Juli 1922, Berlin).  
RGASPI.f.537.op.1.d.105.l.50-90.

9. 項目4aについての決定。ブルジョア・スポーツ組織への立場。ブルーノ・リースケ  
(Entschliessung zum Punkt 4a. Stellung zu den bürgerlichen Sportorganisationen. Bruno Lieske).  
RGASPI.f.537.op.1.d.105.l.238-241.

10. 赤色スポーツインターナショナル第2回大会の委員会会議の протокол [1922年8月2日、ベルリン] (Protokoll der Sitzung der Kommission des 2. Kongresses der Roten Sportinternationale).  
RGASPI.f.537.op.1.d.105.l.256-263.

なお、「赤色スポーツインターナショナル規約」(Statuten der Roten Sportinternationale). Sonderbeilage. Ohne Datum. RGASPI.f.537. op.1.d.217.については1921・22年には制定されていないので、ここでは省いた。『国際スポーツ評論』1935・36年巻の特別付録として挿まれていたもの。2.の Manifesto は、文中の「1922年中葉に召集される・・・」から推定して1921年のものだが、8.の1922年史料でなお「最終的公表のために回付された決議」とされているから、公表された Manifesto ではない。ただし、これに署名した者と1.の名簿(「インタースポーツ」の表記はママ)そして3.から7.の会議参加者との照合から、創立に関わった人物群が明らかになる。3.から7.で3.のみ「第1回」とあるが、他は回表記なく、5.から7.が「プロトコル」第3~5号となっていること、会議表記で6.のみが異なることに注意。9.は8.の添付文書、10.は日付、場所の表記なしだが、文中から確認。「第2回大会」は「第2回協議会」の誤記か、あえてそう表記したかは不明。1922年のベルリン第2回協議会から逆に1921年のモスクワ協議会を第1

回と呼ぶことになる。この第1回協議会は7月19日の会議で7月23日に行うことが決められ、7月29日に終わる。7月19日は準備会合であり、3.の「第1回」の表記が誤解を招くことになっている。実際の第1回が7月23日に第1日目として開会するが、グノの注記のように7月23日を創立日付とすることはできない。この日の記録では何も決まっていなかったことが分かるからである。記録からあえて創立日付を示すとすれば、最終日の7月29日とするのが妥当であろう。執行委員会7人、書記長(執行部幹部会)3人、西欧担当書記が選出されたからである。ただし、その会議は「30日午前7時頃閉会」と記録されているから、創立日付は7月29日から30日にかけてと言ったほうが正確である。

### 3 創立に関わった人物群

「名簿」の13人:ポドウォイスキ(ロシア)、ゴリン(ロシア)、メルニコフ(ロシア)、リースケ(ドイツ)、ハンペル(チェコスロヴァキア)、キラリ(ハンガリー)、ペローニ(イタリア)、ヴェルダロ(イタリア)、ワグナー(アルザス・ロレーヌ)、シモン(フランス)、ドリオ(フランス)、ヨンセン(スウェーデン)、ヨハンセン(オランダ)。

「Manifesto」署名者9人に加わらなかった4人:メルニコフ、キラリ、ヴェルダロ、ヨハンセン。署名者だけに加わり、会議に出席しなかった者にウアレニウス(ポーランド?)、ミューラー(オーストリア?)、書記(氏名不明)。

7月29日のみ参加の者:ワインベルク(ドイツ)、シロロ(フィンランド)。

ちなみに1922年ベルリン協議会の参加者を列挙する。リースケのみが21年からの継続参加で、ポドウォイスキの重病による活動不能、実際には不参加なのに名前があるゴルピヤットニコフ、イエルマン、ゴリン(以上ロシア)、ベナク(チェコ)ということを書き記しておく。リンク(ポドウォイスキ代理)、エルツベルク(イエルマン代理)(以上ロシア)、プレナール、モイニール、サヴァン(以

上フランス)、リースケ、フレンツェル、ビーゼ、ヤンナー(以上ドイツ)、トルセン(ノルウェー)、ラマゾット(イタリア)、ロイスナー(青年インター)、ミカレッチ(チェコ青年連盟)、ウェルスロフ(ロシア)、コッホ(ドイツ)、フランツ(チェコ)、ウォウィオドシュ(セルビア)。以下、評議員として名前がある12人。ケープラー、フェヒナー、ルントシュテット、アペルト、ラバシュース、オールニック、マストロ、シャーフ、ミカレッチ、ヴェントラント、ヤンナー、ツォーベル。

#### 4 1921年モスクワ協議会

7月19日、「一般軍事訓練」部長ポドウォイスキ(議長)、リースケ、ワーグナー、キラリ、ハンペル、メルニコフの出席の下、最初の会合が行われた。ポドウォイスキの開会の言葉は次の通りである。1.世界規模でのプロレタリア・スポーツ運動の連合とその革命化、2.世界で最初のソビエト共和国の、勤労者の革命的スポーツの分野での成果の発信(500万のスポーツ従事)、3.ソビエト共和国の、帝国主義戦争と内戦の7年間の後の特にスポーツ産業分野での困難な状態(スポーツ飢餓)の、西欧の同志への周知、という課題の解決に、「革命的スポーツに、革命的スポーツ組織とその連合、すなわち、赤色スポーツ・トゥルネンインターナショナルの創造に、最も強い関心を持つ共産主義インターナショナル第3回大会と赤色労働組合インターナショナル第2回大会に代表された同志の様々な国の代表の協議会」が取り組むべきだ。この協議会の第一の課題として執行機関を作るための詳細な指導原理と規約の仕上げ、第二に情報、第三に「ロシア支援リーグ」創立による「一般軍事訓練」への援助だとした。それに対してリースケ(赤色労働組合インターナショナル第2回大会ドイツ代議員)が援助の内容を確認する質問をただけであった。この日の会合は協議会の準備会合であったとすることができる。

協議会1日目の7月23日、上記6人にゴリン、ペローニが加わり、ポドウォイスキが開会演説。1.西欧での支配的な軍事的・社会的情勢に一致

していないことが明確になった規約を作り変えること[だが、この規約がいつ、どこで採用されたのか、どんな規約だったのかは一切示されていない 上野]、2.関心のあるプロレタリア大衆を国際スポーツに動員するためにマニフェストを発行すること、3.モスクワに書記長を置くことで組織に共産主義的性格を付与し、ドイツに西欧ビューローを作ること、その理由は、モスクワの書記局が純粋に技術的な考慮から西欧の国々の革命的スポーツ運動を直接的に指導することは不可能だからというもの、4.当面の問題としての新聞、「スポーツの分野で経験があり、一定の革命的地位を占める同志リースケをドイツにおけるビューローのトップにつけることを提案する。」、5.指導原理の仕上げのためにハンペル、キラリ、リースケからなる委員会の設置を提案、6.リースケによるマニフェストの仕上げ、このなかでロシアのスポーツの発展に注意を向けさせること、「女性の保守主義」の打破などが述べられた。3.と4.の途中でゴリンが「老革命家で哲学者」として紹介される。討論ではペローニ、キラリ、ハンペルの発言があったが、注目すべきはリースケの意見であろう。彼は、規約について地域的情勢を考慮に入れておらず、西欧の情勢に相応した新しい規約を仕上げること、新聞では書記長が中央機関紙を発行し、地域組織の機関紙で論評されること、ドイツではすでにそうした機関紙があること、ここで選ばれる書記長に半年後以内に新たな協議会を召集することを委託すること、これからの協議会への代表はできるだけ完全であること、スポーツインターナショナルが次の共産主義インターナショナルの大会に代表されること、などを述べた。しかし、この日には何も決議されなかった。

7月24日は10人の出席、問題の整理をめぐってポドウォイスキ、ゴリンとリースケが対立、リースケ孤立。7月27日にリースケは欠席、最終日の7月29日の出席名簿にはあるものの発言記録はない。24日の会議でペローニ、リースケ、ゴリンからなる指導原理仕上げ委員会を選出、28日午後6時、ホテル「ドレスデン」に委員会召集とさ

れた。29日の会議では指導原理のパラグラフのドイツ語朗読、ロシア語翻訳ということしかなく、委員会報告もなくその議論も全くない。

7月29日の会議の詳細な紹介は省き、ここで一応選出された組織体制のみを記すことにする。

執行委員会：ニコライ・イリイチ・ポドウォイスキ(ロシア)、ウラジミール・フィリップovich・ゴリン(ロシア)、アムプロッシオ・ベローニ(イタリア)、ブルーノ・リースケ(ドイツ)、アーダルベルト・ハンペル(チェコスロヴァキア)、エンリコ・ワーグナー(フランスとアルザス・ロレーヌ)、テッド・ヨンセン(スカンジナビア諸国)。

書記長(執行部幹部会)：名誉書記長ゴリン、書記長ポドウォイスキ、書記ハンペル。

西欧書記：リースケ。

この体制が機能したかどうかは、次のベルリン協議会で判明する。

## 5 1922年ベルリン協議会

当初の議事日程は、1.赤色スポーツインターナショナルの理論的基礎(報告者リンク、モスクワ)、2.赤色スポーツインターナショナルの文化政策的課題(報告者フレンツェル、ベルリン)、3.活動報告、a.中央ビューローの(報告者エルツベルク、モスクワ)、b.西欧ビューローの(リースケ、ベルリン)、4.赤色スポーツインターナショナルの組織、a.革命的労働者運動との関係、b.報道[プレス] c.財政(報告者リースケ)、5.他のスポーツ組織との関係、a.労働者スポーツ組織(報告者リースケ)、b.ブルジョア・スポーツ・社会組織(報告者ピーゼ)、6.選挙。

史料原文40枚の紹介は省き、ここでは実際の議事の冒頭でなされた中央ビューローの活動報告のみを取り上げる。エルツベルクが書記イェルマン[ヤルマンの表記も]の代理として報告したが、ここには1921年から22年までの経緯が示されていて、成立史を論じる上で重要な事項が含まれていると思われる。まず、1921年モスクワ協議会に参加していない書記イェルマンなる人物の代理ということに不可解の念を持つが、それについても

この活動報告で触れられている。

エルツベルクは、21年7月のモスクワ協議会で次の「綱領服務規程」の輪郭が示されたとした。すなわち、「1.万国の労働者階級の身体教育の促進、2.プロレタリア身体教育のための労働者スポーツ連盟の獲得、3.ブルジョア組織にいる労働者スポーツマンの個々の労働者スポーツフェラインへの統合、4.プロレタリア革命のための労働者スポーツの創設、5.プロレタリアートの身体的前衛をそこから作るための労働者スポーツフェラインの革命化、6.ブルジョア・スポーツ組織とルツェルン・スポーツインターナショナルの官僚に対する闘争、7.ブルジョア的影響とブルジョア的方法からのプロレタリア身体教育の解放、8.プロレタリアートの精神文化と調和すべき未来のプロレタリア身体文化の基礎の創造、それ以外に協議会で仕上げられたもの：暫定規約、世界の全ての労働者へのマニフェスト。」モスクワ協議会の記録では実のところこれほどはっきりしたものではなく、「綱領服務規程」という言葉も協議会では使用されなかった。暫定規約の成文も記録にはない。

次に、選出された執行部が挙げられているが、それに選出されていない3人が入っている(キラリ、シモン、ドリオ)。次の報告が注目すべきである。「機構の構築後、執行部には、全ての部門と、とりわけ全ての方向での活動の着手を許す財政部門を組織する課題が待ち受けた。しかし、執行部は一連の困難に陥り、飢餓のソビエト・ロシアが不意に襲って活動は少々弱まった。全ての党労働者がソビエト共和国の様々な地方に送られた。彼らは飢餓と給食戦線に役立てられ、他の労働を成し遂げるはずであった。それに同志ポドウォイスキが重病になり、党と労働組合組織と連絡を結ぶ書記局の全ての試みはこの理由から、そして我々の組織への党と労働組合勢力の無関心な態度のおかげで、いかなる成果も持たなかった。それに加えて財政の絶対的不足があり、数ヶ月間手段を見つけ出すことと我々の活動への党同志の意見を求めることに注意が集中された。それ以外にドイツ

とチェコスロヴァキアとの連絡を結ぼうと試みた。数ヶ月の経過でこの活動も残念ながらいかなる結果も与えなかった。」だからということなのか、何の説明もなく唐突に次の重大な報告がなされる。

「1921年11月に共産主義インターナショナル執行委員会の会議でスポルチンテルンの書記局の固有の管理での引き受けの問題が提起され、11月11日に決議が採択された。」その決議は「世界革命のために第1回国際スポーツ・トゥルネン協議会で創立された組織を、赤色トゥルネン・スポーツフェラインの国際連盟として認める。スポルチンテルンの執行部の議長団に、共産主義インターナショナル執行委員会の議長団同志ワレニウス、青年インターナショナルから同志ドルシニア、労働組合インターナショナルの代表を含める。共産主義インターナショナル執行委員会の議長団の下に、赤色スポーツ・トゥルンフェライン国際連盟のビューローを創設する。ビューローには次の構成が認められる。ビューローの議長 N.ポドウォイスキ、ビューロー・メンバー、G.G.ワレニウス、シラー、ドルシニア[ドルシナとも]、そして書記イェルマン。」つまり、コミンテルンが介入し、議長団やビューローという、協議会では設立も選出もなかった機構を作り出し、任命したこと、そのビューロー書記がイェルマンであったことが、この報告で示されたのである。

ビューローの任務として、協議会で示された全ての綱領服務規程の実行、国際スポーツプレスの創刊、外国との連絡の整備があったという。「実際の連絡はドイツとフランスとのみ存在し、一方その他の国との連絡は偶然的性格を帯び、協議会の決議を重んじられるようにしようとする我々の試みは空虚な願望にとどまった。なぜなら、同志リースケも一連の原因から他の国とはいかなる正規の連絡も確立することができなかったからだ。同志ワグナーはフランスへの帰還後すぐに逮捕された。同志ハンベルは最初モスクワに引き留められ、彼の帰郷の旅の後、今日まで、彼と、あるいは他のチェコスロヴァキアの誰かともいかなる連絡も取れず、その国のスポーツ運動に関する公式

の知らせを持っていない。我々はただソビエトのスポーツ同志も参加することになっていたスパルタキヤードが7月5日から9日までブリュンで行われるということのみを知っているだけだ。だが、行事が8月から7月に期間変更されたため我々はそれに参加することができなかった。」ドイツについてはリースケから聞くとして、「フランスとは同志プレナルによる規則的な連絡が始められ、彼と共産主義グループがフランスのスポーツ組織で扇動しており、我々はこれまでの結果についてフランス代表から聞くことになる。オーストリア、スイス、イタリアはベルリンと連絡している。それ以上の知らせは中央ビューローには入らなかった。イギリス、オランダ、ベルギー、ルクセンブルクについて我々はいかなる知らせも持たず、ただベルリンの側からそれらの国々との連絡を確立する試みがなされたことを知るだけだ。スイス、ノルウェー、フィンランドから、我々の観点を分かち、RSIへの加入の用意があるフラクションが形成されたとの知らせを受け取った。しかし、どこでも財政の不足がはっきり現われ、それによって我々の活動も損害を受けた。」「ビューローは共産党の全ての中央に回状を送った。この書状に答えがドイツ、極東の共和国[中国?]、ルクセンブルクから届いた。マニフェストがスイスの党機関紙と青年インターナショナルで出版された。その他の国ではこのマニフェストは我々の[党]機関紙で出版されなかった。その原因は、我々の党機関紙が、我々がスポーツ組織において果たす活動に然るべき意義を置いていないことに帰せられる。」「ロシアについて我々は次のことを伝えることができる。スポーツ組織における生き生きした扇動が行われ、成果として1922年4月26日にソビエト共和国でスポルチンテルンのセクションが創設された。すなわち、全ての労働者スポーツ組織を統合し、インターナショナルの支線を形成する支線が創設されたのだ。最近ではその活動に関するこのロシア・セクションの正確な報告が出版され、そのうち同志に届くだろう。このロシア・セクションに、同様に極東の共和国の統合したス

ポーツ組織も加わったが、我々は会員数の正確な数をまだ示すことができない。」

固有の雑誌の発行についての次の報告も重要である。「ビューローが耐えねばならなかったあの困難な財政状態にもかかわらず、『国際スポーツ』の第1号を発行するのに可能な全てのことがなされた。編集部は通信を組織し、資金が調達された。西ヨーロッパの国々から記事が集められた。我々は次の週には我々の雑誌の出版が見られると幸せに感じたのだが、喜ぶのは早すぎた。雑誌は諸君が知っている通りこの世に生を享けなかった。諸君がなぜと問うなら、我々はただ再び、我々の党と労働組合の機関紙がスポーツインターナショナルの理念の重要性を十分評価しなかった、いかにそれらがまたプロレタリア体育の歴史的必然性を研究しなかったかという答えを与えることしかできない。ビューローが雑誌にどんなに重要性を認めたかを見て取るには、4月1日のビューローの第5回会議のプロトコルを知るだけで十分である。だが、ビューローの全てのメンバーにこの認識が浸透したわけではなく、共産主義インターナショナル執行委員会幹部会は雑誌の出版に反対した。まずベルリンの協議会を待つべきだというのであった。」最後に、ビューローの構成に変更があったことが知らされる。「今これに属するのは議長ポドヴォイスキ、メンバーに共産主義インターナショナル執行委員会の代表クライビク、青年インターナショナルの代表ドリオ、書記イエルマン。」

リースケによる西欧ビューローの活動報告から次の箇所だけを取り上げよう。「我々が1921年8月にモスクワから帰ったとき、我々の出発後になお我々が後に初めて知った多くのものを決議した会議が[モスクワで]行われた。後に出た全てが我々の完全な賛成を見出し得なかったのは、それから明らかである。マニフェストがそれに属し、我々の考えでは形式を整えて出版されてはならなかった。それは例えば、個々の企業でいわゆる企業スポーツフェラインが創立されるべきだという指示を含んでいる。それは西欧では作られることができない。我々はそれに反対しなければならな

かった。なぜなら、そのようなスポーツフェラインの創立は、個々の大会社においてそのような連絡を作る流行病(エビデミー)の支援を意味することになるからだ。」「こうしたマニフェストがロシアで持たれるような見解から出発して出ていることは我々にははっきりしている。個々の企業でスポーツ組織を作ることはロシアでは全く適切だが、西ヨーロッパ諸国では決定的に反革命家を発芽するであろう。私はいかに容易にそれを欲せず愚行をなしえるかを示すために、まさにマニフェストのこの部分を挙げるのだ。」

本稿では、成立史を論じる上で史料に依拠した研究といえども必ずしも史料に踏み込んだものではないことを明らかにすることに限定した。史料から論ずべきことは余りに膨大であり、多くを課題として残している。

ニツチュ(1985年): Franz Nitsch, Die internationalen Arbeitersportbewegungen. In: Krüger/Riordan (Hrsg.), Der internationale Arbeitersport. Der Schlüssel zum Arbeitersport in 10 Ländern. Köln: Pahl-Rugenstein, 1985. S.174-209. [上野訳「国際労働者スポーツ運動」、上野編訳『論集 国際労働者スポーツ』(1988年、民衆社) 235-286頁]

上野(1986年): 上野「国際労働者スポーツ運動の形成」、伊藤・出原・上野編『スポーツの自由と現代』下巻(1986年、青木書店) 375-400頁

グノ(2002年): André Gounot, Die Rote Sportinternationale, 1921-1937. Massenpolitik im europäischen Arbeitersport. Münster-Hamburg-Berlin-London: Lit Verlag, 2002. 268 Seiten.